

## 活動状況報告（3月）

学生留学コース 5期生 上野 瞭子

半袖でも過ごせるほどの暖かい日が続き、夜の8時頃まで明るく、春の到来を予感させます。

現在のフランスでは、年金改革に対するマンフェステーション(デモやストライキ)が起こり、日常生活や学校生活に影響が及んでいます。

そもそも、フランスにおける年金改革とは、年金を受け取り始められる年齢を引き上げることであり、これに対して、多くの若者や労働組合が、反対することにより、マンフェステーションを起こしているのです。フランスにおけるマンフェステーションは、国民の権利であると公然と受け入れられており、全国各地で一斉に行われます。そして、私が通っている Sciences Po Rennes でも、マンフェステーションが行われる際、これに参加する権利を保障するため、大学全体の講義が休講になります。日本の大学であれば、通常、マンフェステーションが起きたとしても、講義は開かれており、あるいは、時にはマンフェステーションが暴力的になることから、安全性を考慮して、キャンパスに行くことができないとしても、オンライン講義に切り替わることが多いため、日本とフランスとのマンフェステーションに対する感覚の違いに驚きました。

ただし、今回のマンフェステーションは、通常と比べて激化しており、私は、彼らの熱意をととても身近に感じています。大学の講義は、マンフェステーションにより、1週間に1日以上休講になっているのです。また、ゴミ収集業者も、長期間、継続的にストライキを起こしており、ゴミ収集作業がストップしているため、街はゴミで溢れかえっています。さらに、暴力的なマンフェステーションも発生し、その参加者は、ゴミに火を放ち、店のショーウィンドウを割り、これを制圧するための警察も、催涙ガスなどで対抗します。私が図書館で勉強している時、これからマンフェステーションが始まるからと、安全性のために、図書館が突然閉館してしまったこともありました。

これをきっかけに、留学生同士で、自国のマンフェステーションに対する感覚、特に表現の自由について意見を交換し、とても興味深い議論をすることができました。

そんな中でも、私たち Sciences Po Rennes のフランス語プログラムの学生(Sciences Po Rennes の留学生は、講義を英語で受講する学生とフランス語で受講する学生に分かれており、フランス語で受講するプログラムは、フランス語プログラムと呼ばれています。私は、フランス語プログラムを選択しています。)は、Hackathon に挑戦しました。Hackathon とは、少人数のグループをいくつか作り、1日であるテーマについてビジネスプランを考え、発表し、どのグループのビジネスプランが優秀かを競うイベントです。私たちが挑戦した Hackathon のテーマは、「レンヌにおける環境を配慮したスポーツ」を構成することでした。まず、私たちのグループは、留学生という特色を活かして、自分たちの国で行われている環境とスポーツに関連した取り組みを紹介することから始めました。私は、北海道でも開催されたことがある以前から「スポ GOMI」という、制限時間内に街のゴミを收拾してその量を競うスポーツを知っていたため、これを提案しました。そして、結果として、私たちのグループは、レンヌにある大きな川でカヤックを漕ぎながら、川のゴミを集めるといったスポーツを提案し、優勝することができました。このイベントの参加により、母国語ではない言語でのコミュニケーション能力の向上、環境問題に対する意識、ビジネスプランの構成の仕方を身につけることができたのではないかと考えています。

また、今学期も「International Buffet」が開催されたため、私は、手毬寿司を作って持参しました。初めて作った手毬寿司でしたが、多くの人に美味しいと食べてもらうことができました。も

っとも、フランスでは生で食べられる魚の種類が少なく、また、素人が作るものであったため、本格的な手毬寿司を振る舞うことができませんでした。そこで、手毬寿司に興味を持ってくれた相手に対して、「北海道に来てくれれば、もっと美味しい寿司を食べることができるよ」というアピールも忘れていません。また、前学期とは異なる留学生が参加していたため、珍しい料理から、知っているも本場の人を作るものに興味を持っていた料理など、多くの国の料理を堪能することができました。前学期の様子は、9月分の報告書を読んでいただけると幸いです。

3月で全ての講義が終了してしまいました。多くのことを吸収できたか不安ですが、4月5月の期末試験に向けて、講義で得た知識を自分のものにできるよう、より一層勉学に励みたいと思います。

